
ロケットマン

sunshine

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロケットマン

【Zコード】

N7448M

【作者名】

sunshine

【あらすじ】

工作好きの外山翔は、ある日クラスメイトの持ってきた「ロケット・グランプリ大会」をきっかけに、ロケット作りに専念するようになる。紹介してくれた中川雄一、幼馴染の石井沙紀、担任の阿部先生らの協力で、翔はだんだん成長していく。しかしそこにはいろんな壁があつた。壁を乗り越える為に、もがき、苦しむ。そしてその先にある大切なものは手に入るのか。青春を描く感動物語。

(何かベタな感じになつてしましましたが、それなりに面白いはずです。ぜひ読んでみてください。)

1、挑戦の始まり（前書き）

熱心に物事に打ち込むのっていいですよねー。そこを伝えてみたい
です。

1、挑戦の始まり

「えー、宇宙には我々がいる地球を含む太陽系があり・・・」
ただいま理科の授業中。外山翔は雑誌に教科書をかぶせてそれを読んでいた。理科は好きなんだけれど、どうもこの分野にはさっぱり興味が湧かないんだよな。だからいつも違う事をしている。周りを見渡してみる。授業をまともに受けているやつらが半分で、内職したり、机の下でケータイをやっているやつらが半分、といった所か。さすがに同じ雑誌の2周目は退屈だった。もう一冊雑誌を買って置くべきだった・・・

長かった授業がようやく終った。ちょいちょいの授業が今日の最後だ。今授業をしていた阿部先生はこのクラスの担任である。阿部先生は職員室からプリントを持ってくるために一度教室から出て行つた。皆がたわいもない話をし始める。うーん、帰つたら何をしようかな・・・

「おいつ

突然後ろから肩をたたかれた。そこにいたのは中川雄一だった。

「何だよ

「いや、さっき外山なんかの雑誌読んだじやん。

「別にそんなのどうでもいいだろ

「あれや、何の工作?」

何だよ、中身まで見られてんのかよ。

「何でもいいだろ。おれの趣味だ。」

「本当にそれが趣味?」

は? いつたい何が言いたいんだよ中川。

「そりやつておれの事を馬鹿にしているのか?」

「いやいや、そういうわけじゃなくって。もし真剣に工作が好きななら、ある提案があるんだけれど。」

提案? どうこう事かわっぱりわからない。

ちょうどそのとき阿部先生が教室に戻ってきた。

「よし帰りのHR始めるぞー。みんな席につけー」

それを聞きしゃがんでいた中川は立ち上がる。

「じゃあまた後で言うから。」 そういうて自分の席に戻つていった。
おれは引き出しの中に入つているノートや教科書をカバンの中に詰め込みながら不審に思った。はつきり言って中川となんて面識はない。クラスの役員が一緒で、それくらいの会話しかした事がない。なのにあまりにも突然だろ。なんか変な事でもあるのか・・・。

そういう考へているうちに、あつという間にHRは終つた。学級委員の掛け声とともにみんなが席を立ち、教室から出て行く。おれは座つていた。なんか動く気がしない。そうすると案の定中川がやつてきた。

「さつきはじめん。で、話の続き。」

中川は持つていたカバンを机に置いて、何かを探し始めた。
「早速本題なんだけど。」 そういうながら中川はカバンの中から一枚の紙を取り出した。

「ちょっとこれを見てくれない。今こいついう大会が開催されているんだよね。」

渡された紙を見てみる。そこにはこいつ書かれていた。

「口ケット・グランプリ?」

「そう、自分の手作りの口ケットを作つて、どこまで飛ばす事が出来るかを競うんだよ。」

「へー、こんな大会があるのか。面白そうだ。」

「なるほど。だけど何でおれを?」

「いや、実は・・・」 中川が頭を搔く。

「あれあんまり器用じゃないんだよね。この大会には出てみたいんだけれど。誰か作ってくれそうな人いなかなあ、って思つていた

ら外山がいたわけだよ」

「おれまだ参加するなんていつてないぞ」

「まあそんなこというなよ。賞金とかもあるんだぜ。」

「賞金はどうでも良かった。ただ興味はある。しかし・・・」

「でも具体的に何すりやいいとか知つてんの?」

「まあ大体は把握してるよ。だけじやつぱり口ケットを作れるくらいの器用なやつじやないと無理なんだよね。」

「じやあいつたい中川はなにすんだよ」

「おれは設計図を作るよ。やつぱりそれも必要だろ。しかもそういうのおれ考えるの好きだし。」

確かに見るからにそういう事すきそうだな。中川の成績は学校でもトップを争えるほど優秀で、頭が良いのは明らかだった。

「でも、中川がそんな事やつてる場合なのかよ。」

「中川が、つて何だよ。おれだつて何か学生のつむに思い出作つておきたいし。やつぱり何かに打ち込んだつていじやん。」

中川がそんなこと言うなんて・・・。

「まあ、考えるだけ考えてみるよ。」

そついつて中川から貰つた紙をカバンにしまつた。

「良い返事を待つているからな」

中川の声を背中で聞きながら、おれは教室を後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7448m/>

ロケットマン

2010年11月5日17時34分発行